

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

市民の願いとどける議席3人へ 7月豪雨・防災・減災安全な松江 核兵器も原発もない日本へ

3名 の予定 候補者 を発表



佐野 みどり
予定候補



樋野 伸一
予定候補



たちばなふみ
市議会議員



左から:向田地区委員長、舟木市議、むらほ予定候補、尾村県議、
たちばな市議、樋野予定候補、佐野予定候補

日本共産党東部地区委員会(向田聡委員長)は、8月1日、来春の松江市議選の候補者を発表しました。

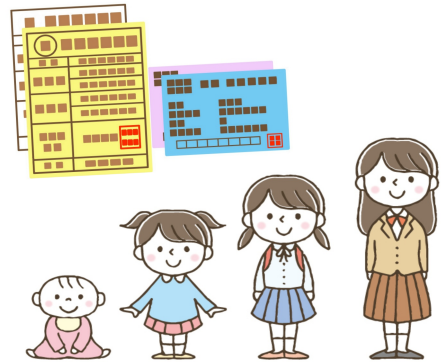
予定候補者は、現職で2期目をめざす、たちばなふみ松江市議(48才・現)、東部地区常任委員の樋野伸一氏(67才・新)、元県医労連執行委員長(77才・新)の3名です。舟木健治市議は今期で勇退となります。

向田氏は、「松江市の未来がかかった選挙、松江から原発ゼロ、ゆきづまった自民党政治、金権腐敗・経済無策・戦争国家・ジェンダー不平等にノーの声を示す選挙にしよう」と



松江市は今年4月から中学生の医療費が無償になりました。入院のみ無料だった中学生の医療費が外来も薬代も無償になったもので、保護者から大変よろこばれています。

そんな中、島根県が県内全ての市町村で高校生の医療費助成を可能とするために補助金の上乗せを決めました。これまで島根県は各自治体に対し未就学児まで補助金を出していましたが、これを中学生まで拡充したものです。県からの新たな補助金によつて押し出される各自治体の独自財源などを使って、高校生までの医療費助成(拡大し、来年4月(令和7年度)から島根県内全ての市町村で高校生までの医療費負担軽減となる見込みです。



円の自己負担ありの制度導入を考えています。各地の取組に学び18歳まで無料とすべきです。国にも全国一律の子ども医療費無償化を求めています。



左から田中議会事務局長、舟木市議、西尾代表理事、
たちばな市議、ロサダ氏、徳永氏、西村氏、中岡次長

国民平和と大行進は7月22日に松江市に入りました。今年にはフィリピンからアルバート・ロサダさん(フィリピン平和活動家)を県内通し行進として迎え、原水爆禁止島根県協会の西尾幸子代表理事(92)、同事務局の西村容子さん、徳永和洋事務局長らが松江市役所を訪れ、舟木健治、たちばなふみ両市議が同席しました。西尾さんは、原爆で女学校の同級生223人を亡くした経験で修学旅行前の小学6年生に話しており「体験を話せ

とよびかけました。翌2日、むらほえりこ衆院一区予定候補、尾村利成県議らは松江市議、予定候補らと共に街頭から訴えました。たちばな氏は「みなさんの声を政治に届け、ひとり1人が大切にされる政治めざし引き続きがんばる」と決意を述べました。原爆ゼロをめざす島根の会の元共同代表で放射線技師の樋野氏は「原発は人類とは相容れない。原爆は人類とは相容れない。原爆のない松江を」と呼びかけ、看護師経験42年の佐野氏は「医療現場、医療従事者の声をしっかり届けたい」と訴えました。むらほ氏は日米両政府による「核の傘」強化にふれ、「被爆者の思いを踏みにじる策動を止めよう」と訴えました。尾村氏は「市議選、衆院選で日本共産党を伸ばして一緒に政治を変えよう」と呼びかけました。

国民平和と大行進 松江市へ 核兵器禁止条約に参加を

国民平和と大行進は7月22日に松江市に入りました。今年にはフィリピンからアルバート・ロサダさん(フィリピン平和活動家)を県内通し行進として迎え、原水爆禁止島根県協会の西尾幸子代表理事(92)、同事務局の西村容子さん、徳永和洋事務局長らが松江市役所を訪れ、舟木健治、たちばなふみ両市議が同席しました。西尾さんは、原爆で女学校の同級生223人を亡くした経験で修学旅行前の小学6年生に話しており「体験を話せ

る人も少なくなっている。風化していくことがないよう市も取り組んでほしい」と挨拶しました。ロサダ氏は「フィリピンのマニラには平和公園があり島の石を置いて平和の波イベントで小学生と折り鶴を作ったり、灯ろう流しや原爆パネル展を行っている。緑豊かで平和な共存を誓いましょう」と呼びかけました。

応対した中岡宏樹総務部次長は「松江市は平和都市宣言し、平和首長会議に加盟している。今年は2か所の公民館で原爆パネル展を行っており市としてできる活動をしていきたい」と応じ、田中孝一市議会事務局長は「松江市議会核兵器の廃絶と恒久平和の実現に努力することを宣言し(H18)、またウクライナ侵略に抗議する決議をあげている。核兵器のない公正で平和な世界への思いは同じ」と話しました。